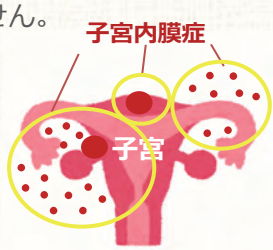
「子宮内膜症」の患者さんが増えている？

こんにちは。公立八女総合病院 産婦人科医 宮川三代子です。
今回は「子宮内膜症」についてお話ししたいと思います。

皆さんは「子宮内膜症」という病気をご存知でしょうか？

近年における「子宮内膜症」の傾向について

私が医者になった 20 年ほど前は「子宮内膜症」は 30 代に多い印象でしたが、最近は、20 代前半の、元々月経痛がある方が、「急激にお腹が痛くなった」と言って救急外来を受診し、診察をしてみると「お腹の中で内膜症でできた卵巣嚢腫（ふくろ）が破れていた」ということも珍しくありません。



現代では、日本女性の体格が昔より良くなった為、初経年齢が早くなり、
子宮内膜症自体も発症する年齢が早くなってきました。

それに加えて、1 人の女性が出産する回数や授乳期間が減っていること。
生涯の月経回数が昔は約 50 回※だったのが、約 450 回に増えていることが原因で、子宮内膜症の患者さんはどんどん増えています。

※昔は初経を迎え子どもをたくさん産むケースが多く、
寿命も短かったために生涯の生理回数が少なかったと言われています。

症状・治療法など

子宮内膜症は月経がある女性の 10 人に 1 人はかかる病気で、子宮内膜症の方のうち約 90%の人が月経痛（痛み）を経験するようです。子宮内膜症は将来、不妊症や卵巣がん、そして妊娠した場合に合併症（切迫早産や前置胎盤など）を起こすリスクがある病気です。

以前は、手術療法が主でしたが、最近は、ホルモン治療で手術をせずに治療できることが増えてきました。

思春期のお子さんを持つお母さんへ

早めに見つけて、治療を開始すれば、子宮内膜症で不妊に悩むこともなくなるのですが、親御さんご自身が月経痛を経験されなかった場合、娘さんが月経痛で悩んでいてもなかなか気づいてあげられなかったり、理解が難しい事もあるようです。
「痛み」というのは、その人自身が感じるものなので、その人が痛いといえば痛いのです。
「痛み止めを飲むのは癖になるからダメ」と我慢させることがないようにお願いします。
痛み止めは、適切に飲めば癖になることはまずありません。

月経痛が年々悪くなるようなら、子宮内膜症が既にできてしまっている可能性があるので、将来のことを考えて、早めに産婦人科を受診されてくださいね。

当院では、月曜日は非常勤も含めて**女性医師が 2 名勤務しています。**
お気軽にご相談ください。

最後まで読んでくださりありがとうございました。

産科部長
宮川三代子

当院のホームページより宮川医師の過去のコラムや
YouTube チャンネルを視聴できます。
「思春期外来」案内ページもありますので QR コードよりご確認ください。

宮川 Dr.コラム　思春期外来